

題字:木版  
西野一男さん



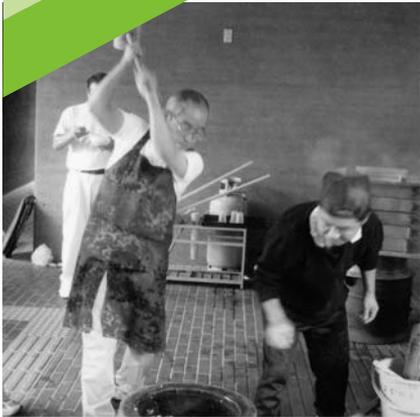
KAGAYAKU

# かがやく

生涯学習情報紙・生きがい探しのパートナー

感動人生! ここに生きる元気な人間びと

ゲーム体操を  
楽しむ(5月)▶



▲手なれた餅つき(6月)



▲いつも笑顔のベテランボランティアさん



▲大盛況の餅つき会(6月)



## 「えくぼの会」と歩む 山下恵久子さん(東町)

### 助け合い、支えあう地域社会を

「えくぼの会」(豊岡第二地区ボランティアグループ)はボランティアの会として昭和五十七年に誕生。「振り返れば二十七年の歴史を持つ会なんですね」と感慨深めに語る山下さん。

山下さんは会の発足から三年目に会長となり、現在に至り、えくぼの会と共に歩いてきた人です。

「苦労も多かったのではの問いに」この会はボランティアさん一人ひとりが会長のようなもので、会長だからといって苦労が多く忙しいということはありません」と笑顔で応えてくれました。

会の設立時は、少子高齢化が社会問題としてマスコミに取り上げられるはじめ、家族や近隣でさえ支えきれない家庭を見聞する時代でした。

「自分達の力で互いに助け合い支えあう、人に優しい生活環境の地域社会が作れないだろうか。同じ思いの仲間が集まり話し合い、その結果ふれあい・いきいきサロンえくぼの会を新たな活動分野として設立することになりました」。

会の活動も当初は介護補助がメインだったのが、時代と共に変化。活動範囲も高齢者ばかりでなく、幼児・児童等との交流へと拡大。

現在は二十七名のボランティア会

### 時代と共に多様化する活動

会員八十人の高齢化が進む中、昼食の献立や調理、それに会員さんの安否確認など気苦労も大変でしょう、との問いに「ボランティア会員さんは驚くほど元気ですよ。肉体的にも精神的にもタフです。頼もしい限りです。お年寄りから元気を貰っているからでしょうかね」と山下さん。

「会員の安否確認も大事な仕事です」。そこで山下さんが実行しているのが「愛メール」。

行事に参加しない人には自筆の手紙「愛メール」を送ると必ず何らかの反応があり、様子が掴めるという。女性らしい気遣い。

本年度行事も四月からスタート。入間市豊岡東地域包括支援センターとの共催、五月の「すこやか講座」は運動とゲームで元気アップ。第一回目の共催行事は大成功!

六月には去年に引き続き二回目の餅つきを。幼児からお年寄りまで百五十人の参加で、大盛況。これからも月一回、「えくぼの会」の「人と人との和」の交流が続く。



■陽気なウエスタン音楽で ロッド ブラディッシュ夫妻（東藤沢）  
**楽しいスクエアダンスを**

ロッドさんはアメリカ国籍の入間市民で、奥さんの富士子さんと「いるまスマイリングスクエアズ」を主催し毎週月曜日、久保稲荷公民館で指導されています。現在会員は四十名で小学六年生から最年長は七十歳と幅広く愛好され、中には親子三代での参加者もいらっしやいます。

入会後、半年で初心者クラスの卒業パーティーがあり、その後バレンタイン・クリスマスパーティー、その他近くのサークルとの交流が沢山用意されています。

ちなみに富士子さんはパーティーで知り合ったロッドさんと国際結婚をされ、入間市に住まわれています。ウエスタンの調べにのり、素敵なコスチューム姿の男女四人ずつの八人が一組になつてのダンスは動きも多く、軽やかなリズムの中に華麗さ



▲「カッコいい」映画の世界のようだね

が表現されており、パーティータイムには皆さん和やかに談笑されていました。スクエアダンスは雰囲気作りが重要で、最初は静かな曲で楽しみ、終盤は盛り上げるように気を遣うそうです。世界のどこの国へ行っても踊れるように指導されています。スクエアダンスの起源は十七世紀初期にヨーロッパからアメリカに移住した人々が、自国の伝統的な踊りを変化させて、作り上げたといわれています。現代は意外性と都会的センスを加味されたものに改良されています。又ロッドさんは入間市国際交流協会会員でもあり、FMチャッピーボランティアによる、市政情報番組英語部門を長年担当していました。「スクエアダンスを広く普及させ、生涯スポーツ・レクリエーション活動の充実および、心身の健全な発展と豊かな生活の形成に寄与することを目指しています」と話してくださいました。



▲パーティーも終わり、はい……チーズ



■いつ茶おクラブ会長 海老沢宏夫さん（65歳）（東金子）  
**今日の元気・明日の元気は笑顔から**

現在、市内では「わいわい探健クラブ」の修了者に対して、6団体が介護予防の事後フォローを実施しています。その内の一つ、「いつ茶おクラブ」の活動を通じ、お年寄りの元気と笑顔がどのように生まれていくかを紹介します。

会長の海老沢さんは、はじめての大役に一生懸命取り組んでいます。いつも心掛けていることはどんなことですかとの問いに「楽しい老後を過ごしてもらうための手助けができれば」とのこと。またスタッフの深井さんをはじめ、かれら仲間の支援、応援なくしてはその目標達成はできないとも言っていました。

お年寄りの元気と笑顔のもととは月二回、それも午前中の二時間程度に限られた条件の中で行われる企画内容から生まれてきます。具体的には介護予防の知識、経験、実践の仕方



▲あいにくの雨 智光山公園でのバラ鑑賞

▼やる気満々、スタッフの皆さん!!



▲参加者全員での体操風景

▼スタッフの熱のこもった演技



を学んでもらうことです。とくに家に閉じこもりがちで、おしゃべりの機会が少ない人達が、この出会いと他の人との触れ合いを通じて、生活に希望と目標を持って生きていくって欲しい、という願いを込めて作り上げていきます。

スタッフ全員の励みは「楽しかったよ」という感謝の言葉で返ってくることです。

ボランティアは肩に力を入れないで出来るといっていた会長の言葉の裏には、大変なことをしているんだという感じをこの取材を通して受けました。

入間市の高齢者のピークは、平成二十五年に迎えると予測されています。

**ガンバレ！スタッフの皆さん。**

「わいわい探健クラブ」運動機能向上を中心とした、特定高齢者向け通所型介護予防事業です。三ヶ月間毎週一回参加者それぞれに合った運動等（運動講座・栄養講座・レクリエーション講座）を専門の講師が指導します。



■みゆき楽団 神崎みゆきさん(仏子)  
音楽で心に栄養を・・・



「詞と柔らかい音楽で癒したい。それと共に自分も癒されています」と神崎みゆきさん(55歳)。バンドメンバーも同世代です。

活動は、駿台ふれあいハウス・イーストコート・介護施設・大森の池まつりや入間川等の野外で演奏しています。

オリジナル曲が多いですが、宮沢賢治の「雨にも負けず・・・」の詩を曲にのせて語ったりもします。

ライブ活動では、他の若いバンド仲間やお客様との触れ合いを大切に

「命あるものを大切にしない事が多い昨今ですが、今は心の時代。皆がそれに少しずつ気づき始めて良くなるうとしていっているのではないだろうか。詞を通して皆が優しくなつて、皆が豊かな気持ちになれるようがんばります。」

「会があるものを大切にしない事が多い昨今ですが、今は心の時代。皆がそれに少しずつ気づき始めて良くなるうとしていっているのではないだろうか。詞を通して皆が優しくなつて、皆が豊かな気持ちになれるようがんばります。」

「会があるものを大切にしない事が多い昨今ですが、今は心の時代。皆がそれに少しずつ気づき始めて良くなるうとしていっているのではないだろうか。詞を通して皆が優しくなつて、皆が豊かな気持ちになれるようがんばります。」

これからも、小さな作業所やグルー



■グリーンハーモニー 代表 矢内順子さん(宮寺)  
健康で唱い続ける皆の輪・和！

宮寺公民館での午後のひと時、グリーンハーモニーの心地よい歌声が流れてくる。結成して今年で十五年目。童謡・唱歌を唱い続けています。

練習は、山本多美子先生の指導のもと、三部に分かれての本格的な素晴らしいものです。ソプラノ・メゾソプラノ・アルトの三パートに分かれての練習、圧倒されました。

会の代表を務めていられ



「会が存亡の危機になった時も、唱う事をあきらめなかつたわ。唱うという事は健康にしてくれて、皆にやさしく接していきける。それに童謡・唱歌は忘れられていく現在何とか後世に残し、少しでもお役に立てれば一石二鳥でしょう」と・・・。

昔、声が出なくなり、



「プの所に行つて演奏させて貰えたら嬉しい！」と神崎さんは目を輝かせて語っていました。



▲駿台ふれあいハウスにて

二十年あまり苦しんだそうです。自分なりの腹式呼吸で声を取り戻した時、唱というのは苦しみ、悲しみを忘れさせ、楽しみに変えてくれる魔法みたいなもの。これからも唱い続けて人の輪・和を大切にしたいとの事です。唱う事は健康・元気の素。人と人との繋がりが心の輪・和を深めていくのではないのでしょうか。会員の生き生きはつらつ笑顔が美しい！

▼楽しい憩いのひととき



客席の中に微笑みながら溶け込んでいる植松さんに優しさを感しました。人々を癒し、元気づけてくれるすばらしい三味線の音色に、感動させられたひとときでした。

■元気の源は・・・ 植松美和子さん(上藤沢)

三味線の音色が人々を癒します

介護施設や病院、又は福祉センターなどを廻つて、利用者の皆さんに喜ばれている植松美和子さん(70歳)は、十六・七年前から公民館のサークル活動の一つである「恵びす会」(代表大島夫妻)に入り三味線を習い始め、今ではどんな曲でも弾きこなせるそうです。

会場となった、施設の一階、大広間からは、多くの利用者さん達が今か今かと心待ちにしている様子が伝わってきます。この日を待ち望んでいたのでしょう。植松さんの三味線が始まると、みんな大きな声で拡大された歌詞を見ながら歌い始めました。



▲愛用の三味線



「ドラマフェスタin入間」実行委員会委員長 松尾貴子さん(豊岡)

一九九七年、「ドラマフェスタin入間」が誕生。以来、毎年二月から三月にかけて産業文化センターや中央公民館、市民会館で開催され、来年で十四年目を迎えます。

その仕掛け人の一人が松尾貴子さん（64歳）。

当初、藤の台公民館で影絵劇サークル「グループモコモコ」を立ち上げた。それが二十六年前。その後、人形劇フェスティバル等で活動していましたが、市民劇団が無かったこともあって、行政と一体になる「アクティブシテイ・イルマ」をつくろうと『出会い・ふれあい・学びあひ〜一人一人が輝く人間人びと』をテーマに掲げ、県の文化助成を得てドラマフェスタをスタートさせました。



▲チャレンジ精神旺盛！腹話術もこなす器用なエンタティナー

純真無垢な気持ちを、いつまでも持ち続ける松尾さんは芸域も多彩。影絵劇の製作をはじめ、語り・紙芝居・腹話術・南京玉すだれ・どじょうすく



▲天真爛漫！みんなの笑顔に会いたくて・・・

い・バナナの叩き売りなど、大道芸までやってのける人。家の中は種々の人形は勿論、ピエロをはじめ、ぬいぐるみ等多彩な衣装と小道具で満ち溢れています。好奇心から広がる夢の世界はとどまることを知りません。

各地の人形劇フェスティバルや、ニューヨーク・オーストラリアなど、海外にも行きます。それらの出会いから学びへ、向上心からなりふり構わず突き進む松尾さん。

最近では、デイサービスセンターや学校などからも招かれ、その豊富な出し物を持って積極的に活動しています。「子どもたちをはじめ、人の笑顔に会いたくて」。

こうして松尾さん自身、さらにパワーアップして来年の春を目指しています。



▲「夢の種のつくりびとになりたい」と松尾さん

「ドラマフェスタin入間」とはふるさと人間の魅力を再発見し、文化を通じた人づくり、街づくりを目指し、演劇、人形劇、語り等によるオリジナリティー溢れる創作活動の成果を発表し、創り手も観客も心豊かで元気になれる表現のお祭り。

まなびピア埼玉2009in入間  
☆第15回いるま生涯学習フェスティバル☆

「学ぶ楽しさ発見！！」

生涯学習してみませんか？ あなたにとっての学ぶ楽しさ、探してみませんか？ 見て、聞いて、体験できるイベントに加えて熱気球や狭山茶の特別展示、講演会などが目白押し！！

日時：平成21年11月1日（日） 午前10：00～午後3：30  
場所：入間市博物館・東野高校・大妻女子大学・二本木公民館 他  
共催：入間市・入間市教育委員会・入間市生涯学習をすすめる市民の会・東野高校・大妻女子大学  
主管：第15回いるま生涯学習フェスティバル実行委員会

大募集！！

生涯学習情報紙「かがやく」編集委員

本紙「かがやく」の編集ボランティアを募集します。  
※「かがやく」で取り上げて欲しい人物や活動等も随時募集しています。

●編集後記●

● 若いも若きも目標のある生活ができる社会はすばらしい。今後も感動人生を紹介していきたいと思えます。(K)

● 取材を通して色々な方と出会え、それぞれの生き方に触れる事が出来、自分の経験だけでは得られなかった思いに出会えました。感謝!!(SM)

● 終戦直後、学校でフォークダンスの時間があり、当時男女が手を触れ合う事など考えた事もなく、恥ずかしいやら、照れてダンスにならず先生に怒られた事、思い出します。(SI)

● 人生とは感動の世界です。生まれてきた事に感動し、生き続ける事に努力し、そして、生きてきた事に感謝する。達成感こそ、生きる喜び!!(N)

● 「継続は力なり」という言葉があるように、何事も続けていくことが大事で、その結果というものは後から現れるものだと思います。(H)

● 歳・重ねる度に低いプライド高くなり自己中心になりがちであるが、それも又良しとして最後まで自分らしさを持って歩いていきたい。(M)

● 「安全見守り」として小学生と下校路を歩く。元気な生徒達の会話に遠い昔の私の記憶と戦中・戦後の風景が走馬灯のように巡る日々。(Y)



企画編集：「かがやく」編集委員会  
発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ 入間市教育委員会生涯学習課  
連絡先 〒358-8511 入間市豊岡 1-16-1  
TEL 04-2964-1111(内線4123) FAX 04-2964-4841

